

国立家畜衛生研究所 計画フェーズ2

実施地域

ランパン、コンケン、バンコク、ツンソン



1. プロジェクト要請の背景

タイでは、畜産振興を図るうえで家畜疾病による生産性の低下が大きな阻害要因となっていた。この状況に対処するため、1986年8月、我が国は無償資金協力により国立家畜衛生・生産研究所を建設し、さらに同年12月からプロジェクト方式技術協力を実施した。1993年までの7年間の協力の結果、診断の基礎的技術の強化、生物製剤の開発、口蹄疫の診断法やワクチンの改良など、同研究所の機能強化に大きな成果をもたらした。

しかし、関係地域機関では診断技術が未熟なこともあり、全国レベルでの計画的な疫学的調査・研究活動ができず、重要疾病に係る防疫活動が実施されていなかった。このため、タイ政府は、診断方法の平準化を通じ、地域獣医研究診断センター(RVRDCs)の診断技術の向上を図り、全国レベルでの計画的かつ効果的な防疫を推進することを目的として、我が国に国立家畜衛生研究所計画フェーズ2の実施を要請した。

2. プロジェクトの概要

(1) 協力期間

1993年12月9日～1998年12月8日

(2) 援助形態

プロジェクト方式技術協力

(3) 相手側実施機関

国立家畜衛生研究所(NIAH)

(4) 協力の内容

1) 上位目標

タイの重要な家畜疾病に係る防疫計画を策定する。

2) プロジェクト目標

タイの主要な家畜疾病の診断技術の平準化とその有効利用を図る。

3) 成果

- a) 5大疫病(豚コレラ、ブルセラ病、結核、ヨネネ病、節足動物媒介病)に対する効果的な防除法を科学的観点から明らかにする。
- b) NIAHにおいて重要家畜疾病の診断技術を確立し、東北部、北部、南部の3か所の地域獣医研究診断センター(RVRDCs)に技術移転する。
- c) NIAH及びRVRDCsにおいて、県及び郡の獣医師に研修及び技術指導を行う。

4) 投入

日本側

長期専門家 12名
短期専門家 33名
研修員受入 25名
機材供与 2.53億円
ローカルコスト負担 0.73億円

タイ側

カウンターパート 121名
研究所、センター施設
ローカルコスト 1億1,499万バーツ(約3.85億円)

3. 調査団構成

団長・総括/家畜衛生研究:三浦 康男 農林水産省
家畜衛生試験場製剤研究部長
家畜感染性疾病:濱岡 隆文 農林水産省家畜衛生試験場総合診断研究部疫学研究室長
家畜非感染性疾病:久保 正法 農林水産省家畜衛生

試験場総合診断研究部病理診断研究室長
 協力効果:栗山 喬行 農林水産省経済局技術協力課
 海外技術協力官
 計画評価:勝西 純子 JICA 農業開発協力部畜産園
 芸課

4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1999年7月12日～1999年7月25日

5. 評価結果

(1) 効率性

本プロジェクトでは、中堅技術者養成対策事業費、啓もう普及活動費、技術交換費などの各種特別現地業務費を組み合わせ、多くの種類のセミナー、講習会、勉強会を開催し、カウンターパートのみならず、広く獣医師や畜産関係者の知識習得と技術のレベルアップを効果的に図っており、その面ではプロジェクトの効率性は高いと判断される。

ただし、タイ側の中堅レベルの優秀なカウンターパートは畜産振興局の他の様々な活動にも携わらざるを得ず、プロジェクト活動に専念できない状態があった。また、1997年半ばに発生した経済危機はその後のNIAHとRVRDCsの予算を直撃し、本プロジェクトにおける研究活動及び運営に支障を来した。

(2) 目標達成度

5大疾病である豚コレラ、ブルセラ病、結核、ヨーネ病、節足動物媒介病の研究及び調査が広範囲にわたり遂行され、これらに対する効果的な防除法が科学的観点から明らかにされた。

そして、標準診断マニュアル(病性鑑定指針)の作成により、NIAHにおいて全国レベルの診断法の統一と平準化がなされ、診断技術が確立された。この診断技術のRVRDCsへの移転も完了しており、プロジェクト目標は100%達成された。

(3) 効果

標準化された診断技術は、中堅技術者の養成と啓もう活動を通じ畜産の現場へも反映されている。診断技術が平準化され効果的な診断ができるようになったため、主要疾病の実態が明らかになり、防疫計画の策定が可能になった。

また、本プロジェクトを通じ、カウンターパートは責任感や自主性、積極性をもつようになり、各種委員会やワーキンググループを設立し、主要課題の研究推進、セ



原虫の実験感染のため、牛からの脾臓摘出法を指導する相崎長期専門家を指導する

ミナー・研修の企画運営、年報発行などを行うようになっており、研究所としての機能向上が見られる。

(4) 計画の妥当性

本プロジェクトの上位目標として掲げている「重要家畜疾病に係る防疫計画を策定する」ことは、プロジェクト開始時と同様、現在においてもタイの政策に合致しており、本プロジェクトの計画は妥当である。

(5) 自立発展性

NIAHは、農業協同組合省畜産振興局の1部局としてタイの家畜衛生における中核的な役割を持ち、またRVRDCsは、全国に家畜疾病診断技術の普及を図る組織となっており、組織、制度の両面から自立発展の見通しは良好である。

しかし、1997年半ばからの経済不況はNIAHとRVRDCsの予算を直撃しており、家畜衛生技術の向上と普及の重要性を考慮すると、タイ政府の両機関に対する継続した予算措置が望まれる。

6. 教訓・提言

(1) 教訓

各種現地業務費をその目的に合わせた確に組み合わせ活用することにより、より大きな協力成果を効果的に引き出すことができる。

(2) 提言

プロジェクトは効率的に実施され、目標も達成されている。NIAH及びRVRDCsは、財政的には不安も残るが、組織、制度面では自立発展性が高く、協力期間の延長やフォローアップの必要性はない。今後は、NIAHに移転された技術・施設を利用した第三国研修などを通じて、周辺諸国の診断技術の向上に貢献していくことが望ましい。